Q 小学校におけるフッ化物洗口の普及促進について

昨年の第４回定例会において、フッ化物洗口の小学校におけるモデル事業の推進等について一般質問を行い、教育長からは「今後は、モデル市町村での成果や課題を検証し、県内すべての市町村に安全に導入できるよう必要な体制づくりについて前向きに検討してまいります」との答弁をいただいたところである。しかし実施状況は芳しくなく、県においては、フッ化物洗口に取り組む就学前施設との連携を図るとともに、小学校低学年から長期間にわたり継続して実施できる対象校を選定し、さらに県や市で歯科衛生士に協力を要請し、対象校への支援を依頼するなど、フッ化物洗口のより効果的な普及に努めていただきたい。そこで、小学校におけるフッ化物洗口の取り組みの現状と今後どのように推進していくのか、教育長の考えを伺う。

A 教育長答弁

今年度は、昨年度のモデル校での成果等を生かしながら、実施対象をすべての市町村に拡大し、各市町村とも小学校1校をモデルとして実施するよう推進している。

議員からの就学前施設と小学校の連携については、就学前施設においては、小学校よりも早くフッ化物洗口の取組を始めた市町村が多くあるので、その取組を小学校でも継続することによって、更に効果が得られることが期待される。

今後も保健医療部や県歯科医師会等、関係機関と連携を図りながら、小学校におけるフッ化物洗口を推進し、子供たちのむし歯の予防に努めていく。

再質問

週一回のうがいで費用対効果の高いこの取り組みを着実に普及してほしい。人員がネックなのであれば県で衛生士の雇用を考えたり、全学年実施のモデル地区を絞って実施し成功事例を作って全県に展開していくなど、ボトルネックの分析と解消がカギとなると思う。そういったことも踏まえて、今後の普及に関して再度問う。

A 営業戦略部長答弁

歯科医師会や衛生会と連携し進めていく。また、全学年実施に関しても考えていく。

いばらき自民党　政務調査会では、様々な課題に対して勉強会をしています

●緑の強靭化に関する勉強会

▲海岸沿いの防砂林における松食い虫問題に関して県執行部へ質問をする（７月 12 日）

●女性活躍社会に向けた取り組みの勉強会

▲一般質問に向け、女性管理職登用に関して県執行部と現状や課題について意見交換をする（８月１日）

●茨城県性暴力根絶条例（仮）に関する勉強会

▲茨城県更生保護女性連盟との意見交換会にて、加害者の出所後についての問題点を伺う（７月 11 日）

皆様のご意見、ご要望をお寄せください

発行者 髙橋 直子
〒300-0837 茨城県土浦市右籾1882
029-897-3024　029-846-5521
office@run705.com　https://run705.com
髙橋 直子　茨城

Facebookをご利用の方
https://www.facebook.com/naoko.takahashi.run
「髙橋 直子」のFacebookページ

Twitterをご利用の方
https://twitter.com/run_705
@run_705

Instagramをご利用の方
https://www.instagram.com/run705_ibaraki/
run705_ibaraki

令和４年秋号 vol. 02
一般質問報告

県政活動報告

茨城県議会議員 髙橋 直子
Naoko Takahashi Prefectural Government Action Report

9/1 から 9/28 まで茨城県議会の令和 4 年第 3 回定例会が開催されました。9/8 に一般質問をしましたので、その内容のご報告を致します。皆様のご意見・ご感想をいただけますと幸いです。

Q 女性活躍の推進について

女性が、幹部になって働きたい、ほどほどのキャリアで働きたい、仕事はせずに子どもをたくさんほしいなど、様々な生き方がある中で、人生の選択の幅を広げることが重要。結婚や出産などに左右されず、働き続けたいと考えた時に、職場環境の整備や社員の意識改革など、仕事と生活の調和を図りながら働ける環境づくりが必要。また、女性リーダーを目指せる環境整備も重要である。

女性活躍の推進に向けた現状と課題、今後の取り組みについて、大井川知事に伺う。

▲檀上から県執行部へ女性活躍の現状と課題について質す（９月８日）

▲女性活躍社会に向けた県の取り組みについて答弁する大井川知事（９月８日）

A 大井川知事答弁

男女がともに持てる能力を存分に発揮し、社会経済の発展に貢献することは、世界の潮流であり、私は、女性が活躍できない組織は能力の半分を生かしきれない組織と言っても過言ではないと考えている。

子育てサービスの利用促進とともに女性活躍や働き方に関するポータルサイトを立ち上げ、国・県の様々な支援制度や先進企業の事例などの情報を一元化し、必要な情報を必要な人に届けていく。女性をはじめ誰もが、本来持てる能力をしっかりと発揮できる社会の実現に向けて全力で取り組んでいく。

Contents

令和4年9月8日（木）髙橋直子　一般質問の概要

①女性活躍の推進について【知事】
②つくば霞ヶ浦りんりんロードの誘客促進について
【生活県民環境部長・土木部長】
③ポストコロナにおける観光振興について【営業戦略部長】
④安心・安全な社会基盤の整備について【土木部長】
⑤小学校におけるフッ化物洗口の普及促進について【教育長】
②就学前の教育環境等のさらなる充実について【教育長】

Q つくば霞ヶ浦りんりんロードの誘客促進について

つくば霞ヶ浦りんりんロードにおけるサイクリングを気軽に来て、楽しんでもらえるような取組が必要。専用のウェアを着て競技としてのサイクリングも重要だが、女性同士やファミリーなどで、インスタ映えスポットを巡るなど、気軽に趣味としてはじめられる仕組みが必要。少子化対策とも絡めて、サイクリングを通じた若い世代の婚活なども考えられる。誰もが気軽に楽しめるサイクリングに向けた現状と課題、今後の取り組みについて生活県民環境部長に伺う。

A　生活県民環境部長答弁

議員ご提案の様々な取組みは、新たな利用者層の開拓にもつながると考えられることから、ぜひ地元関係者等と共有していきたい。県としては、つくば霞ヶ浦りんりんロードについて、引き続き、サイクリスト目線に立ち、何度でも訪れたくなるようなサイクリング環境の整備を進め、沿線自治体や事業者等と連携しながら、ルートの様々な魅力の発信や、民間事業者等を含めた多様な主体による活用を促進し、地域振興に繋げていく。

また、つくば霞ヶ浦りんりんロードの霞ヶ浦沿岸部について、県は土浦市手野町地内において自転車道の整備を進めているが、自転車専用の通行空間が確保されない箇所があることから、早期の整備が必要と考える。

つくば霞ヶ浦りんりんロードにおける危険個所について、今後どのように対応していくのか、土木部長に伺う。

A　土木部長答弁

霞ヶ浦沿岸の市町村道区間については、沿線市町村において、県と同様に矢羽根等の路面標示や案内標識の整備を進めてきており、今後も利用者からの意見を聞きながら改善していけるよう、つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会などの場を活用し、沿線市町村等と協議連携していく。

誰でも安全にサイクリングを楽しんでいただけるよう走行環境の整備に引き続き取り組んでいく。

Q ポストコロナにおける観光振興について

コロナ対応における生活様式の変化に伴い、観光スタイルにも変化が見られ、３密を回避しやすいアウトドアや、近隣地域内での観光であるマイクロツーリズム、個人・家族など　少人数でマイカーを利用した旅行の人気が高まるなど、多様化する観光客のニーズに的確に対応することが求めらる。

ポストコロナの観光需要獲得のため、広く県外から誘客を図る取り組みを戦略的に推進する必要があると考えるが、営業戦略部長の考えを伺う。

A　営業戦略部長答弁

今後のポストコロナを見据えた観光振興においては「いば旅あんしん割」や「北関東周遊フリーパス」の観光需要喚起策に加え、観光スタイルの変化や多様化するニーズを的確にとらえて、中長期的な視点で稼げる観光地域づくりを推進していく。多彩なアクティビティが楽しめる「体験王国いばらき」のブランドイメージの確立に向け、魅力があり稼げる観光地域づくりと戦略的な発信に取り組み、広く県外からの誘客を促進していく。

再質問

コロナ対応における生活様式の変化に伴い、観光スタイルにも変化が見られ、３密を回避しやすいアウトドアや、近隣地域内での観光であるマイクロツーリズム、個人・家族など　少人数でマイカーを利用した旅行の人気が高まるなど、多様化する観光客のニーズに的確に対応することが求めらる。

ポストコロナの観光需要獲得のため、広く県外から誘客を図る取り組みを戦略的に推進する必要があると考えるが、営業戦略部長の考えを伺う。

A　営業戦略部長答弁

若い世代の観光需要を取り込むことは大変重要で、2022 年 10 月 1 日から実施する「プレデスティネーションキャンペーン」では若者向けの企画がある。また、インフルエンサーと呼ばれるインターネット上で影響力を持つ人を活用して、情報発信を戦略的に取り組んでいく。

茨城県議会議員　髙橋 直子　県政活動報告　Vol.02（令和４年秋号）

Q 安心・安全な社会基盤の整備について

（１）国道３５４号土浦バイパス及び都市計画道路荒川沖木田余線の一体的な整備について

国道３５４号土浦バイパス及び都市計画道路荒川沖木田余線について、現在、４車線化が進められているところである。また、荒川沖木田余線は、ＪＲ常磐線の東側に位置し、国道6号を補完する都市計画道路であり、土浦駅東口から北側区間について、1日当たりの交通量が2万台を超え、土浦駅に向かう1車線区間については、大変な交通渋滞が発生している。木田余跨線橋の東側で交差する、この２つの道路の４車線化が実現することで、土浦市内の渋滞緩和に大きく寄与する。

国道３５４号土浦バイパス及び都市計画道路荒川沖木田余線の整備の進捗状況と今後の見通しについて、土木部長に伺う。

A　土木部長答弁

国道 354 号土浦バイパスに関しては、木田余跨線橋と橋梁前後の道路の改良工事を進めている。今後は、木田余バイパス西入口交差点と木田余跨線橋東交差点について、交差点改良工事を行い、早期に全線の４車線化が図られるよう、引き続き事業を推進していく。都市計画道路荒川沖木田余線に関しては、引き続き地元住民からのご協力をいただきながら用地取得を進め、土浦市と連携を図りながら、４車線化整備を進めていく。

（２）一級河川桜川の早期改修について

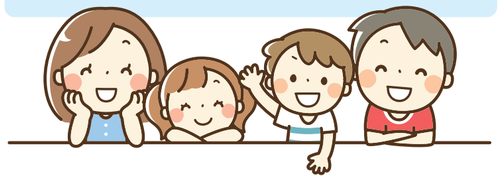
桜川の河川改修は、昭和１３年の水害を契機とし、霞ヶ浦合流点から約１０ｋｍ区間は平成元年度までに概ね完了しており、これまでに河川改修が着実に進められ、地域の安全・安心の確保が図られてきたところである。しかし、中・上流部での河川改修により、下流部への流入量が短時間で増加する危険性が想定されることから、桜川下流部における水深の浅い箇所について、早期の河道掘削工事が必要であると考える。そこで、桜川における河川改修のこれまでの取組みと今後の見通しについて、土木部長に伺う。

A　土木部長答弁

桜川の中・上流部における河川改修を進展させることに伴い、洪水時に下流部への流入量の増加が見込まれるため、下流部の河道の状況を調査した。国道 354 号の土浦橋から上流の上備前川合流付近までの約 800 メートル区間については、河道の流下能力を向上させるため、今年度から掘削に着手する。河川改修などのハード対策は整備に長い時間を要するため、防災・減災に向けたソフト対策を併せて実施する。今後とも、桜川の適切な管理を行い、水害の防止・軽減を図り、住民の安全・安心の確保に努める。

Q 就学前の教育環境等のさらなる充実について

義務教育課程においては、就学前と比べ、子どもたちが身に付ける資質・能力が増えるとともに、その確実な育成が必要。小学校入学前から小学校での学びに向けた教育が重要であり、子どもたちが小学校の授業に意欲的に取り組み、人として生きる上で必要な挨拶や基本的な生活習慣、道徳性、規範意識など、学びの基礎を身に付けられる、幼児教育の一層の充実を図るべき。地域や家庭の環境にかかわらず、全ての子どもが格差なく質の高い学びへ接続するために、保育者と小学校教員の相互理解を深めるとともに、連携を担う人材の研修や保護者の相談支援体制の強化など、子どもの成長を中心に据え、関係者の分野を越えた連携による環境整備が求められる。子どもの成長を切れ目なく支える観点から、小学校への円滑な接続を一層意識し、県内の全ての子どもたちが、就学前に質の高い幼児教育等を受けることのできる環境整備に取り組むべきだが、教育長の考えを伺う。

A　教育長答弁

保育者の資質向上のための研修、幼保小の連携のための研修、保護者の相談体制を拡大していく。保育者・教員、家庭や地域など、子どもに関わる全ての大人が連携することにより、幼児教育で育まれた資質・能力を小学校教育へとスムーズにつなぎ、未来の社会の創り手となる子どもたちが、より豊かな人間性や学びに向かう力を身に付けられるよう、就学前教育の充実に努めていく。